

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鳥 取 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	智頭町立智頭小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	1	1	1	1	3	11	22
児童数	33	37	26	40	35	40	4	215	

研究の概要

1. 研究主題

<p>学習習慣の確立と国語算数の基礎学力の向上を目指して ~ 学習集団の育成と系統的な学習及び個に応じた指導法の工夫改善 ~</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年(1年~6年生)で実施。 ・1~2年は、TTで算数・国語で。 ・3年~6年は、算数は少人数で、国語はTTで指導。 (・5~6年は理科でもTTを実施) ・国語、算数の教科を中心に。 (・授業研究 ・少人数指導の研究)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「学習習慣の育成と基礎基本の定着を目指した実践」 研究の見通し(仮説) ・学習習慣の定着が不十分であり、それが、学力の向上を阻害している要因と考え、学習習慣の向上を考えた取り組みを進めることにより、学力向上に繋がっていくと考える。</p> <p>研究の内容・方法 ・毎日の朝の読書の実践(月曜日から金曜日まで・15分間) ・「のびっ子タイム」の設置(金曜日1時間目) (・国語、算数の時間を活用) ・国語や算数のドリル学習の工夫 (・各種ドリル類の整備充実) ・少人数指導の充実 (・算数科で実施 - 個の実態に応じた習熟度別・興味関心別の編成) ・智頭小、智頭中の連携 (・授業交換会と今後の取り組みについての情報交換)</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「学習習慣の定着と国語算数の基礎学力向上のための系統的な指導」 研究の見通し ・学習習慣の定着を図ることで、より一層、児童の学校・家庭での集中した学習姿勢、態度を確立していくことが出来るであろう。これを基盤として、より一層、基礎基本の徹底と系統的な国語、算数の学習の充実を図ることが出来るであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業研究の面 <ul style="list-style-type: none"> ・国語算数の授業研究の充実 ・少人数指導の充実 (2) 基礎基本の定着をめざした学力向上対策の面 <ul style="list-style-type: none"> ・「朝の読書」の質の充実向上に向けた取り組み ・「のびっ子タイム」の充実 ・国語、算数の学習時間の中にプリント活用のスキル学習の実施 (3) 学習習慣の定着の面 <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の充実（合同授業研究会） ・智頭小学校「学習の決まり・約束」などを検討し、学習習慣の確立に向けての取り組みの充実 ・保護者への生活習慣、学習習慣確立に向けての啓発
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の向上と基礎基本の定着と個に応じた発展的学習の充実 <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の向上に伴って、児童個々により一層、児童自らが課題を持ち、自主的・主体的に発展的な学習に取り組んでいくことができる力が育ってくるであろう。そのことにより、「学力向上」に向けての取り組みを、より一層進めることができると考える。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 授業研究の面 <ul style="list-style-type: none"> ・国語算数の授業研究の充実（平成15年度に引き続き） <ul style="list-style-type: none"> （・「聞く」「話す」活動、更に、「書く」活動にも視点を当てた、授業研究） ・少人数指導の充実（習熟度別の少人数指導も） <ul style="list-style-type: none"> （・個の実態に応じた指導と評価の充実を目指した算数科を中心とした少人数指導） ・智頭中学校との合同授業研究会 <ul style="list-style-type: none"> （・授業交換会、中学校の国語部数学部の先生との合同の会） (2) 基礎基本の定着をめざした学力向上対策の面 <ul style="list-style-type: none"> ・「朝の読書」の質の充実向上 <ul style="list-style-type: none"> （・読書活動の発展につながるように、読書ノートなども検討） ・「のびっ子タイム」の充実 <ul style="list-style-type: none"> （・年間計画の作成及び実施） （・児童の実態を考えた個別学習の充実＝児童に選択） ・国語・算数の学習時間の始めにプリント活用のスキル学習の実施 <ul style="list-style-type: none"> （・5分間程度のスキル学習） ・自主学習用のドリル集の作成 <ul style="list-style-type: none"> （・智頭小学校のドリル集の作成） （・小中で連携した学習内容に基づく） (3) 学習習慣の定着の面 <ul style="list-style-type: none"> ・智頭小学校「学習の決まり・約束」などを検討し、学習習慣の確立に向けての取り組みの充実 <ul style="list-style-type: none"> （・小中連携して学習のきまり等の内容の検討） ・保護者への生活習慣・学習習慣確立に向けての啓発
--------	--

(3) 研究推進体制

<p>本年度は研究推進体制を2本柱</p> <ul style="list-style-type: none"> - 校内研究推進委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・国語教育研究部

・算数教育研究部

・昨年度は、学年別研究部 - 低学年・中学年・高学年
分野別研究部 - 授業改革研究部・学力向上対策
・学習習慣指導

- 智頭中との学力向上フロンティア事業

- ・研究主任担当者会
- ・小中合同研究推進委員会（本年度2回実施）
- ・小中合同授業研究会（本年度5回実施）

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本年度の学力状況

- ・教研式C R T検査（観点別到達度学力検査）
 - ・12月16日実施
 - ・1年～6年の全学年で国語、算数の教科で実施

* 本年度は、教研式N R T検査を2月に実施予定。その結果も含めて今後報告。
本報告では、教研式C R T検査の結果についてのみ報告。

4 観点別評定	国語（得点率）	算数（得点率）
1 年	78.3	88.5
2 年	71.9	80.5
3 年	69.4	74.1
4 年	72.9	78.3
5 年	68.4	68.2
6 年	73.0	67.2

* 各学年の得点率を記載。

国語	話す聞く	書く	読む	言語事項
1年	78.4	71.7	68.2	94.6
2年	82.3	55.6	66.6	82.9
3年	73.0	67.8	62.8	73.6
4年	80.0	69.7	66.7	74.7
5年	76.5	68.8	64.8	63.4
6年	80.3	64.8	73.8	72.9
算数	数と計算	量と測定	図形	数量関係
1年	88.9	86.1	91.3	- - -
2年	85.5	80.8	78.1	- - -
3年	77.6	69.6	81.8	70.4
4年	82.7	80.8	90.8	63.5
5年	69.9	68.3	69.9	63.3
6年	67.6	62.3	77.5	63.4

* 中高学年で「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域が弱い傾向が見られる。

* 「量と測定」「数量関係」の領域が学年によって弱い傾向が見られる。

* 本年度は、算数を中心に少人数指導を3年～6年まで全時間実施した。その結果、算数科については、得点率は、ほぼ全国平均であるが、国語科については、本調査で見る限りでは、「話す聞く」「書く」領域が弱い傾向が見られる。来年度は、国語科の領域での重点項目として学力向上対策を考えていきたい。

- 成果
- ・算数科を中心としての少人数指導の年間を通しての実践の継続
 - ・「のびっ子タイム」を始めとした基礎学力定着に向けた実践の充実
 - ・学習態度を始めとした学ぶ意欲や姿勢の育成
 - ・学力と基本的生活習慣の関係に関する保護者との共通認識の確立
 - ・小中での合同の授業研究会の開催

2. 今後の課題

- ・国語科に見られる「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域の弱い傾向の改善をねらった国語科学習のより一層の充実。特に、「読んで、聞いて、書いて」という活動を国語科の授業の中に充実させていくこと。
- ・算数科に見られる「量と測定」「数量関係」領域の弱い傾向の改善をねらった算数科学習のより一層の充実。特に、算数的操作活動を充実させ、具体物に触れながら量的感覚を養う学習と、文章題を含め筋道を立てて問題を解決していく学習の充実。
- ・少人数指導を始めとして、T T指導のより一層の充実を含む学習指導方法の工夫改善。国語・算数に限らない各教科での幅広い指導体制のより一層の工夫改善。
- ・学習に対する姿勢の面で、学校での学習と家庭での学習の連携をより一層充実させていく意味で、学習の決まりについての保護者との共通理解及び学校内での共通認識の確立。

学力等把握のための学校としての取組

- ・教研式NRT検査「診断的学力検査」(国語・算数)
 - ・毎年度2月中旬に実施。
 - ・全学年の学習傾向について前年度との比較分析。本年度の学習の総括及び次年度の学習課程の計画の参考。
- ・県学力診断テスト(国語・算数)
 - ・1月中旬に実施。
 - ・全児童の学力結果について集約。全学年の前年度との比較分析。
- ・本年度は教研式CRT検査「観点別到達度学力検査」(国語・算数)
 - ・12月中旬に実施。
 - ・2学期段階での全校的な学力状況を把握。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 毎年度、学力向上フロンティア公開学習を実施。
 - ・10月27日に本年度も実施。
 - ・教職員(町内小中学校教職員を含めて保護者対象。)
- 毎年度末に研究集録を作成。(町内各小中学校に研究集録等を配布。)
 - ・研究授業の概要、学習の成果や取り組み状況などについて報告

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無